

産業建設常任委員会活動レポート

開催日：令和6年1月24日(水)

開催場所：1・2号委員会室

経済部

1. 農業振興について

(1) ヒグマ春季管理捕獲について

近年、全国的に人への警戒心の薄いヒグマが人里に出没している状況が見られ、中標津町でも令和5年度は70件超の目撃報告が寄せられています。また、高齢化などを背景に駆除を担えるハンターは年々減少し、技術の承継は急務となっています。

これらの課題に対応するため、人里への出没を抑制するとともにヒグマ対策に必要な人材の育成を図ることを目的とした、北海道の補助事業である「人里出没抑制等のための春期管理捕獲支援事業」を活用します。

事業概要として、捕獲期間は令和6年2～3月に計2回実施し、捕獲区域は人の生活圏（市街地・集落・農耕地・キャンプ場・登山道など人が日常的に利用するエリア）から概ね10km以内の区域としています。

捕獲頭数は実施1回につき親子連れ3頭（親1頭子2頭）の捕獲を想定し、捕獲方法は銃器を使用し、7人体制による巻き狩りを想定（勢子3人、待ち3人、見張り1人）しています。

報償金は捕獲時3万円/頭（成獣のみ 幼獣は必ず母熊と行動しているため、親子連れの場合は親子合わせて1頭分の捕獲として算定する）。

出動費は1人当たり1,140円/(時・人)。

【主な質疑】

委員：春グマの捕獲ができる人数やチームはどのくらいありますか？

担当：熟練したライフル銃を使える方が中心となります。現在、ライフル銃を使える方は19名おり、4～5チーム程度できると想定しています。

委員：本来の目的であるハンターの育成は今後、本町としてどのような目標を立てていますか？

担当：現段階では目標は考えていませんが、58名いるハンターを維持していかななくてはならないので、これから方針計画等を考えていきたい。